

議 会 報 告 会 議 録

平成28年11月23日（水・祝）

八 王 子 市 議 会

議 会 報 告 会 議 録

平成 28 年 11 月 23 日（水曜日・祝日）

出席者（13 名）

議 長	福 安 徹		
副議長	小 林 鈴 子		
議会運営委員長	浜 中 賢 司		
総務企画委員長	馬 場 貴 大	都市環境委員長	安 藤 修 三
総務企画副委員長	西 本 和 也	都市環境副委員長	岩 田 祐 樹
総務企画委員会委員	市 川 潔 史	都市環境委員会委員	鈴 木 勇 次
総務企画委員会委員	山 越 拓 児	都市環境委員会委員	渡 口 禎
総務企画委員会委員	佐 藤 梓	都市環境委員会委員	前 田 佳 子

[午後7時00分開会]

◎浜中議会運営委員長 皆様、こんばんは。ただいまから平成28年度八王子市議会議会報告会を開催させていただきます。

本日はお忙しい中、議会報告会にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。私は、本日の司会を務めさせていただきます議会運営委員会委員長の浜中賢司と申します。どうぞよろしくお願いいたします。(拍手)

報告会といたしましては3年目となる議会報告会でございますが、昨年にも増してより良い報告会にしたいと存じますので、御来場の皆様にも御協力をいただきますようお願い申し上げます。

それでは、まず初めに、主催者を代表いたしまして福安徹議長より御挨拶申し上げます。

◎福安議長 皆様、こんばんは。御紹介をいただきました八王子市議会議長の福安徹でございます。本日は、3回目となります私ども八王子市議会の議会報告会に、多くの市民の皆様の御参加を賜り、ありがとうございます。

八王子市議会は、平成26年4月に八王子市議会基本条例を定め、さまざまな場面で、さまざまな議会改革に丸となって取り組んでまいりました。この議会報告会も議会改革の一環として、市民の皆様に日頃市議会ではどんなことをしているのか、知っていただく機会にしようということで開催をさせていただいております。

本日、御報告をさせていただくのは、「八王子市市制100周年記念事業に対する議会の取り組み」について、また、「全国都市緑化はちおうじフェアに対する議会の取り組み」について、この2点について御説明をさせていただきます。

それぞれの委員会で、委員長を中心にこれまでの取り組みをまとめてまいりました。少しでも議会活動を知っていただけるきっかけになればと思っております。これからも多様な市民の皆様の御意見を賜って、私たちのふるさと八王子が少しでも元気になりますよう、そしてまた、住んでよかったと思っただけよう、議会一丸となって取り組んでまいります。最後までよろしくお願いいたします。(拍手)

◎浜中議会運営委員長 ありがとうございます。

では、ここで、本日の報告会の進め方について御説明をさせていただきます。

今回は、休憩を挟みまして、2つのテーマの報告を行う、2部構成となっております。まず、「八王子市市制100周年記念事業に対する議会の取り組み」について御報告をさせていただきます。次に、「全国都市緑化はちおうじフェアに対する議会の取り組み」について御報告をさせていただきます。

また、昨年までは、質問用紙による質問をお受けして、お答えしておりましたが、今回は各報告の後に、挙手による質問をお受けすることにいたしました。

本日の終了時間ですが、午後8時30分頃を予定させていただいております。

なお、本日は議会報告会の様子を「市議会だより」などに掲載するため、写真撮影をさせていただきますので、御了承いただきたいと思います。

次に、壇上の議員を紹介させていただきます。まず、福安徹議長でございます。

◎福安議長 こんばんは。(拍手)

◎浜中議会運営委員長 小林鈴子副議長でございます。

◎小林副議長 こんばんは。(拍手)

◎浜中議会運営委員長 馬場貴大総務企画委員長でございます。

◎馬場総務企画委員長 はい。こんばんは。(拍手)

- ◎浜中議会運営委員長 西本和也総務企画副委員長でございます。
- ◎西本総務企画副委員長 はい。こんばんは。(拍手)
- ◎浜中議会運営委員長 総務企画委員の市川潔史委員でございます。
- ◎市川総務企画委員 こんばんは。(拍手)
- ◎浜中議会運営委員長 同じく山越拓児委員でございます。
- ◎山越総務企画委員 こんばんは。(拍手)
- ◎浜中議会運営委員長 同じく佐藤梓委員でございます。
- ◎佐藤総務企画委員 こんばんは。(拍手)
- ◎浜中議会運営委員長 向かって右側になります。安藤修三都市環境委員長でございます。
- ◎安藤都市環境委員長 こんばんは。(拍手)
- ◎浜中議会運営委員長 岩田祐樹都市環境副委員長でございます。
- ◎岩田都市環境副委員長 はい、こんばんは。よろしくお願ひします。(拍手)
- ◎浜中議会運営委員長 都市環境委員の鈴木勇次委員でございます。
- ◎鈴木都市環境委員 御参加ありがとうございます。(拍手)
- ◎浜中議会運営委員長 同じく渡口禎委員でございます。
- ◎渡口都市環境委員 こんばんは。(拍手)
- ◎浜中議会運営委員長 同じく前田佳子委員でございます。
- ◎前田都市環境委員 こんばんは。(拍手)
- ◎浜中議会運営委員長 以上でございます。

それでは、初めに「八王子市市制100周年記念事業に対する議会の取り組み」について報告をさせていただきます。報告者は総務企画委員会の馬場貴大委員長です。よろしくお願ひいたします。

◎馬場総務企画委員長 皆様、こんばんは。御紹介をいただきました総務企画委員会委員長の馬場貴大と申します。

報告に入ります前に、本市が作成しております1分間の「100周年記念PR動画」をご覧くださいと思います。

〔PR動画上映〕

◎馬場総務企画委員長 いかがでしたでしょうか。ご覧いただきましたように、八王子市は、来年、平成29年に市制施行100周年を迎えます。記念事業の概要については、本日の報告会の資料として皆様にお配りしたものを一緒にご覧いただければと存じます。

初めに、八王子市の歴史について少し触れたいと思います。市制施行は、大正6年、1917年9月1日、東京府南多摩郡八王子町から、東京府八王子市になりました。当時の人口は約4万2,000人、世帯数は約7,000世帯、議員数は30名でありました。

これに、当時まだ合併前だった9つの町や村を合わせると約8万3,000人、1万3,500世帯でありました。現在の人口は57万7,513人、世帯数は26万2,000世帯を超え、この100年間で人口は約7倍となっております。

さらに、平成27年4月には、東京都初の中核市となるなど、さまざまな節目を迎えながら、多摩地区最大の都市として発展してきた本市において、市議会は、議員1人で1万4,000人を超える市民の皆様の代表として、市に声を届けるという役割を担っており、その重責に気持ちを新たにすところでありま

それでは、ここで、これまでの周年事業について振り返ってみたいと思います。

まず、昭和11年、市制20周年には、八王子市の歌、市歌がつくられました。

昭和31年の市制40周年には、「八王子市史」の発行が計画され、その後、6年をかけて編さん作業が行われました。

昭和51年の市制60周年では、市の木「イチョウ」と市の花「ヤマユリ」、そして平成3年の市制75周年には、市の鳥「オオルリ」が選定をされております。

そして、平成18年の市制90周年では、台湾の高雄市、韓国の始興市、そして中国の泰安市と海外友好交流都市となります。

実は、この市制90周年記念事業が行われていた平成18年には、既に100周年を見据えた質問が議会で行われておりました。それが現在進められている新市史編さん事業であります。前回の市史編さんから半世紀以上を経過しており、新たな市史の編さんについて市の考えを尋ねたところ、歴史を振り返る上で必要不可欠なものであり、できるだけ早い時期に市史編さん室を設置するとの方針が示され、100周年記念事業第1号の位置付けでスタートをしております。

その後、示された市史編さんの基本構想と編集方針に対しては、多くの市民に親しみやすいものにすることを求め、さらに、集めた資料を閲覧できるようにすべきとの議会からの提案に対し、事業が一段落した後に、多くの市民の皆様へ親しんでいただけるよう、ダイジェスト版などの発行も検討したいとの答弁も得られております。また、集めた資料には個人情報などもあるが、公開できるような形で進めていきたいとのお答えもいただいております。

そして、いよいよ来年、100周年の平成29年までに、全14巻からなる「新八王子市史」の刊行が完了する予定とのことです。

また、「八王子市議会史」も昭和56年の市制70周年の記念事業の一環として計画され、10年間の編さん期間を経て、平成2年に刊行されておりますが、来年の100周年に向け、市議会としての記念誌も現在編集中であります。

さて、少し寄り道をして、歴史を振り返りながら、100周年の関連事業として10年にわたり行われてきている市史編さんの話を先にさせていただきました。記念事業についての説明に戻りたいと思います。

昨年、議会報告会でも御紹介いたしました。公募により決定した今ご覧の100周年のロゴマークは、色で言いますと「空と山並み」「夕日とまちのにぎわい」「水と緑」、この八王子の情景を色彩で表しております。

また、同じく公募で決定したキャッチフレーズは「百年の彩りを次の100年の輝きへ」です。いずれも、八王子の特徴である多様な地域性、豊かな自然などを表現しております。

これまでの本市の歴史を振り返り、多様性を理解した上で、これからの100年をイメージすることは、未来への第一歩を踏み出すために、とても大切なことだと思っております。まず、会場の皆様とその思いを共有するために御紹介させていただきました。

では、この記念事業に議会がどのように取り組んできたか、この点について御紹介させていただきます。

今から6年前の平成22年には、100周年の具体的な事業を考えていない市に対して検討を求め、その後、平成24年には、準備委員会などを早期に設置することを求めたところ、理念やテーマを明らかにした上で体制を整えていきたいとの答えがあり、その翌年には基本構想が策定され、具体的なスケジュールも示されました。

そこでまず、100周年の節目に当たり、「市制100周年を全市をあげて祝い、ふるさと八王子への愛着を深めること」さらに、先人達が築いた歴史をしっかりと見つめ、「八王子の魅力を再認識し、次世代に継承するとともに、広く発信すること」そして最後に、「八王子の豊富な地域資源をより一層活用して、人々が楽しみ、集い、わくわくするまちのにぎわいを創出すること」この3つの基本方針が示されました。この3つは、記念事業の中心となる考え方であります。

次に、この記念事業の実施体制についてです。

市の内部組織である市制100周年記念事業実施本部のほか、23の各種団体の代表の皆さんと、6名の市民委員で構成する市制100周年記念実行委員会が組織され、この両輪体制で事業が進められております。

そして、この実行委員会には、市議会議員全員が参与という形で参画をしております。議会の会議だけでなく、実行委員会の中でも情報を共有し、質問、提案などができること、組織の内側と外側から、まさにダブルチェックの機能を果たすことができる体制になっており、これが大きな特徴であると思っております。実は、ちょうど昨日、実行委員会が開催され、今後の事業の内容などが議題となっております。

記念事業は、今年と来年の2年にわたって展開をしています。プレ事業期間の今年、第1ステージ「彩りの100年」では、これまでの100年を振り返り、八王子の魅力を再認識することを目指して、今まに行われているパネルキャラバンなどもその事業の1つでございます。本日も、ロビーにその一部を展示させていただきましたので、既にご覧になられた方もいらっしゃるかと思いますが、このパネルキャラバンの実施に当たり、議会より提案し、また、「はちどこ」という取り組みを実現させていただきました。

第2ステージは、平成29年1月から行われる「彩りから輝きへ」であります。過去から未来へのたすきをつなぐ、こういった機会として計画されております。

記念事業期間である平成29年4月からは、第3ステージ「輝きの100年」です。全市をあげて100周年を祝い、次の100年に光を当て、未来を見つめ、語る機会として計画されております。

最後は、平成30年1月からの第4ステージ「未来への一歩」です。記念事業を総括し、前進する機会としていくことになっております。

次は、いよいよ100周年記念の中心的事業についてです。

八王子の「八」になぞらえて、ここにお示ししましたように、八王子の魅力を引き出す8つのテーマが設定されております。そして、これらのテーマがばらばらにならないようにつなぐ取り組みとして、「全国都市緑化はちおうじフェア」と「ビジョン・フォーラム100」の2つの事業が、記念事業の中心的な事業として位置付けられております。その1つ、「全国都市緑化はちおうじフェア」については、後ほど、都市環境委員会安藤委員長から御報告をさせていただきますので、ここでは先に進めます。

中心的事業のもう1つが、「ビジョン・フォーラム100」です。一般的なフォーラムと異なる大きな特徴が2点ございます。1つは、リレー形式で行うこと。2つ目は、子どもたちの意見を聞き入れて議論するといった点でございます。こうした一定の方向性で結び付いた8つのテーマのシンポジウムが展開され、最後のフォーラムでは、子どもたちが未来に向けたメッセージを発信することで、総合的な提言として次世代へとつなぐ役割を果たしてまいります。

次に、広報啓発活動の展開です。多くの皆さんにこの100周年を知っていただくために、プレ期間である今年、ポスター、のぼり旗などを使ったPRやSNSを使った情報発信などが行われております。これについて、よりわかりやすくするために、市のホームページに100周年に特化したサテライトページをつくることを議会から提案したところ、記念事業とシティプロモーション、この八王子のまちを広く内

外に知っていただくためのシティプロモーションの特設サイトの実現に向け、準備しているとの答えがありました。

そのほかにも、今年7月には、100周年と本市の魅力を積極的にPRしていただける、八王子にゆかりのある著名人の方に団員となっただき、「八王子100年応援団」が結成されております。皆様も御存知の方がいらっしゃるかと思います。北島三郎団長のもと、このような組織であります。

また、八王子まつりの民踊流しのギネス記録更新もありましたし、この夏、八王子学園八王子高等学校の甲子園出場もPRの追い風の1つとなりました。

さらに、啓発物品等にロゴマークや企業名、応援メッセージを入れることや、独自商品にロゴマークを使用するなど、企業の皆様との協力を進めてまいります。今日、私や岩田議員、西山議員などしておりますが、この100周年のネクタイや食品のパッケージなどにもロゴマークを付けさせていただいたりしている取り組みです。

御紹介してきたものは、いずれも多くの市民の皆様に参加していただき、市制100周年を全市をあげて祝う気運、ムードを盛り上げるための取り組みでもございます。

このほか、市民の皆様が自ら企画を実施することを重要視した市民提案事業があります。1回目の募集には35件の応募がございまして、16件が選ばれましたが、より広く市民の皆様に参加していただきたいという事業の意図からも、応募数が少なかったのではないかとして、再募集を求めたところ、その時点では、審査の結果に即して検討するとの答えでしたが、その後、2次募集が行われることが決定いたしました。先月、プレゼンテーション審査が行われ、昨日開催された実行委員会で、新たな市民提案事業が決定したところであります。

また、本市の市民協働の取り組みの象徴的なものとして、いちょう祭りや八王子まつりなどがあります。このお祭りに100周年の冠をつけた取り組みをした場合、特別に予算的な支援をすべきではないかとして、市の考えを尋ねたところ、記念事業全体の予算の枠の中で、意向にかなうよう支援していきたいとの方針が示されました。

さらに、学園都市の特性をいかし、記念事業に大学との協働、連携を求め、市の考えを尋ねたところ、大学の持つ知的資源や学生の力は本市の貴重な財産であり、協働事業は意義あるものと考えている。現在、東京工科大学と調整し、プロジェクトマッピングの事業を進めており、ほかの事業についても協働実施を推進していきたいとの方針が市側から示されました。

八王子には、工科系大学や美術系大学など、さまざまな英知が集結しておりますので、ほかにもさまざまなコラボレーション事業が進むことを、我々議会からも期待しているところでございます。

次に、本市の歴史を振り返り、次の世代につなぐ取り組みとして、新たな国内姉妹都市と、新たな海外友好交流都市について御紹介をしたいと思います。いずれも行政主導ではなく、市民レベルでの交流が先行している事例です。

国内姉妹都市としては、八王子千人同心の活躍を縁にして、昭和48年に北海道苫小牧市と、昭和49年には栃木県日光市と姉妹都市の盟約を結んでおります。

これに続き、本市の歴史上のつながりから、御承知の方もいらっしゃると思いますが、先日、10月1日、新たに神奈川県小田原市と埼玉県寄居町と姉妹都市の盟約の締結をいたしました。3都市で姉妹都市の盟約を締結するというのは、全国的にも極めて珍しいということでございます。

今回の締結に至るまで、時間をかけた市民レベルでの交流があったようでございます。平成6年には八王子市、小田原市、寄居町の観光協会が、「北條三兄弟三領共同宣言」を行い、それぞれのお祭りでの

交流がありました。また、最近では、圏央道の開通などで距離的にも近くなりましたので、この効果をいかして姉妹都市としての交流を進めていくことになるでしょう。

また、現在、市は、海外友好交流都市の候補として、ドイツのヴリーツェン市との交流、協定締結について検討を進めております。先日、新聞でも報道がありましたように、11月3日から7日の日程で、協定の締結に向けて、市と議会、市民の代表から成る訪問団6名が、ドイツのヴリーツェン市へ行ってまいりました。

本市中町出身の肥沼信次博士が、第二次大戦終戦直後のヴリーツェン市で、伝染病の治療に尽力し、自らも発疹チフスにかかり、37歳の若さで亡くなりましたが、現地ではヴリーツェン市の名誉市民として、今も多くの方々から尊敬されているという歴史上の御縁があります。八王子出身の肥沼信次博士は自らの命と引きかえに多くのドイツ人の命を救った、我がまち八王子が誇るべき人物であります。

平成27年11月には、市民団体から、肥沼博士を名誉市民とすること、顕彰碑の設置、ヴリーツェン市と友好交流都市になることを求めた要望書が市長宛に提出されました。これを受け、議会では、要望書の実現に向けた市の考えを問う内容の質問が多くありました。これに対して、市民の思いをしっかりと受けとめ、ヴリーツェン市との交流のあり方について検討を進めていくとの考えが市側より示されました。

本年2月には、市民団体主催の講演会が開催され、300名近い市民が参加したほか、3月8日に肥沼博士の没後70周年を迎えるに当たり、2,650羽もの千羽鶴とつるし雛が制作されました。これらの品は、市長メッセージを添えて、ヴリーツェン市の博士の墓前に供えられましたが、市民の皆様が中心となった活動は、報道機関の注目を大いに集めた内容となっております。

このような市民交流の盛り上がりの後押しする形で、議会でもさまざまな切り口で市の考えを問う発言がありました。肥沼医師の功績を未来に伝え、また観光資源の1つにもするため、出身である中町公園周辺には、顕彰碑建立と案内板の設置が必要であるとして市の考えを尋ねたところ、市民の皆様の思いを受けとめ、市制100周年を機に、ヴリーツェン市との交流や顕彰碑建立について検討していくとの考えが示されました。

また、ヴリーツェン市との友好交流都市の協定締結は不可欠なものだとして、市の考えを尋ねたところ、先人の功績をたたえるという記念事業の基本理念にふさわしいものと考えている。市民の皆様の意向や、議会での議論を踏まえ、本市とゆかりのある都市を選定していくとの方針が示されました。

御紹介してきましたように、100周年に向けてさまざまな事業が企画されておりますが、このほかにも議会からさまざまな提案が行われ、市の考えを問い、実施するとの確約を得たものがございます。

記念事業に、マーチングイベントやパレードなどの音楽の要素を取り入れるべきであるとして、市の考えを尋ねたところ、マーチングについては、イベントのオープニングセレモニーで活用するなど、さまざまな場面で有効的に音楽を取り入れることとして考えていきたい。また、パレードは、今後、具体的な事業を計画していく過程で、実現の可能性について検討していきたいとの答えがありました。

また、市民の皆様の記念になり、記憶に残るような取り組みとして、八王子オリジナルの婚姻届の作成と、市役所のロビーなどに記念撮影コーナーの設置をすることを求め、市の考えを尋ねたところ、提案内容は、本市のイメージアップや、本市に対する愛着の醸成にもつながると考えている。100周年の効果的なPRにもなるため、事業の一環として準備を進めていきたいとお答えがありました。記念撮影の場所についても、合わせて検討することとさせていただきます。これは、先日公表された市の実施計画である「八王子ビジョン2022アクションプラン」の中に、市制100周年記念事業として、プレミアム婚姻届を作成する事業として、早速、具体的に記載されております。

また、記念事業に市民が主体的に参加できるフラッシュモブの手法を取り入れてはどうかという提案に対しては、人々が楽しめるイベントであり、幅広い年齢層の方に興味を持っていただける手法だと考えている。フラッシュモブとは、たまたま道を歩いている人が突然音楽と一緒に踊り出すという、1つの見せ方であり、実施に向け、大学等教育機関を初め各種団体に働きかけ、イベントの中で効果的に組み入れるなど、実現に向け検討しているとのことでありました。

このほか、計画されている事業としては、大相撲巡業八王子場所、これが、平成29年4月にエスフォルタアリーナで開催されます。八王子で大相撲の巡業があるのは、何と26年ぶりとのことでございます。また、先日、11月15日より、市民の皆様に向けた入場券の先行販売が始まっているとのことでございます。

さらに、「IFSCクライミング・ワールドカップボルダリング八王子2017」が、平成29年、来年の5月に、同じくエスフォルタアリーナで開催されます。ワールドカップでございます。

以上のように、事業の説明と、議会からの発信、提案について御説明させていただきました。

では、最後に、100周年記念事業で何をを目指すのか、この点についてでございますが、それは、先人達が知恵を絞り、積み重ね、発展してきたこれまでの100年の歴史を振り返り、まちの魅力を再認識する機会とし、多くの皆さんで100周年を祝うため、さらに市民の皆様と協働していきたいということではないでしょうか。議会としても、市民の皆様の自主的な活動を後押しできるよう、100周年を盛り上げてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上で、総務企画委員長としての報告を終わります。御清聴ありがとうございました。(拍手)

◎浜中議会運営委員長 ただいまの報告は、総務企画委員会の馬場貴大委員長でございました。ありがとうございました。

それでは、報告が終わりましたので、御質問をお受けしたいと思っておりますが、本日は100周年の記念事業と緑化フェアに対する議会の取り組みについての報告となっておりますので、市政に対する御要望や御意見はお受けしかねます。よろしくお願いいたします。

また、本日、時間の関係でお答えができない質問に対しては、後日、市議会のホームページ等でお答えできればと考えております。

なお、多くの皆様から質問を頂戴したいと思っておりますので、お一人様1回につき1つの質問でお願いしたいと思っております。

それでは、マイクを持った議員がお近くにいますので、御質問のある方は挙手をお願いしたいと思います。では、お願いします(挙手者から指名)。

◎市民 市政に対する質問はいけないということで非常に不満です。お祭りの面だけではなくて、負の面といいますか、家内の祖父母も八王子空襲で2人とも亡くなっております。そういうような、高尾のトンネルのこととか、いろいろとございますけれども、負の面というか、お祭りだけではなくて、歴史を振り返るのであれば、すべてを振り返っていただきたいと思っております。本当は市議会について、口利きの記録をつくって欲しいとか、政務活動費がいかげんに使われている事実などがあるので、それを言いたいのですが、今日は遠慮します。以上です。

◎浜中議会運営委員長 ありがとうございます。申し訳ございませんが、今日は報告が2つのテーマとなっておりますので、限らせていただきました。後ほど、もし時間がありましたら、一部はお受けしたいという気持ちでおりますので、よろしくお願いいたします。

ほかにごございますでしょうか。テーマに沿った御質問ならお受けいたします。今日は2つのテーマに

絞っていますので御了承いただいて、後ほど、もし時間があればお受けいたします。100周年に関連する御質問はいかがでしょうか。

それでは、第1部は終了し、休憩に入りたいと思います。10分間の休憩をとらせていただいて、19時45分から第2部の「全国都市緑化はちおうじフェアに対する議会の取り組み」についての報告を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

〔午後7時32分休憩〕

〔午後7時45分再開〕

◎浜中議会運営委員長 それでは、2つ目の報告として、「全国都市緑化はちおうじフェアに対する議会の取り組み」について御報告させていただきます。報告者は、都市環境委員会の安藤修三委員長です。よろしくお願いいたします。

◎安藤都市環境委員長 皆様、改めまして、こんばんは。本日はお忙しい中、夜遅くに御参集賜りまして、誠にありがとうございます。ただいま御紹介いただきました都市環境委員会の委員長をさせていただいております安藤修三と申します。お聞き苦しい点が多いかと思いますが、最後までお付き合いいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

私からは、「全国都市緑化はちおうじフェアに対する議会の取り組み」ということで、本日報告させていただきます。

まず、この事業の正式名称ですが、「第34回全国都市緑化はちおうじフェア」ということになります。この愛称についてですが、公募を行いまして「みどりの丘の花絵巻はちおうじ2017」というものに決定いたしました。これは、中央大学1年生の天野拓海さんの作品であります。応募総数374件の中から選ばれたものです。

そして、このキャラクターが「はっちお〜じ」と「みどり〜」で、左側の「はっちお〜じ」は、皆さん御存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、八王子市の観光PRのゆるキャラでございます。そして右側の「みどり〜」ですが、こちらは八王子フェアに合わせて考えられたPRのゆるキャラでございます。今後、まちで遭遇した場合には、優しい声をかけていただければと思います。

早速、全国都市緑化フェアの概要について入っていきたいと思います。

まず、そもそも全国都市緑化はちおうじフェアとはどのような事業かということですが、30年以上の歴史を持つ、国土交通省が提唱している国内最大級の花とみどりの祭典でございます。開催に当たっては、国土交通省の開催の同意が必要になります。

毎年開催されていますが、観客動員数は、毎回20万人から500万人の観客動員数の実績がございます。かなり数字に開きがありますが、これは開催日数ですとか、開催する場所によってかなり数字が変わってきます。20万人というのは、八王子市とほぼ同規模の船橋市の実績になります。八王子市は、何万人を目指すのかと申しますと、40万人、これを目指していこうということで計画をしているところです。

続きまして、緑化フェアの開催理念について御説明します。

皆さんも多くの方が共感されると思いますけれども、八王子の良いところは、都市でありながら豊かなみどりが近くにあるところだと思います。高尾山を初めとする豊かなみどり、そして、浅川を初めとするきれいな清流が流れる潤いのある都市だと思います。八王子の人と自然の調和、このあり方を全国に八王子ならではの形として、「みどりの環境調和都市」として発信していく。これが都市緑化フェアの開催理念ということになります。

次に、緑化フェアの開催の狙いについて、御説明いたします。

1つ目は、「花とみどり」による学びの場づくりということで、さまざまな体験型のイベントを通して、市民の皆様の緑化意識を高めていただく、という狙いがございます。

2つ目は、「花とみどり」によるにぎわいの創出。先ほど40万人を目標として動員していくと申しましたが、市制施行100周年の記念事業の中心事業としてふさわしいにぎわいを創出する事業として、狙いを設定しています。

3つ目は、「花とみどり」による景観形成でございます。

次に、都市緑化フェアの概要について御説明いたします。

ご覧のとおり、来年の9月16日から10月15日までの30日間を開催期間として設定しております。開催時間は、朝の9時から夕方5時までということになります。

事業費についてですが、約9億円を予定しております。これについては後ほど御説明申し上げます。緑化フェアの会場運営について、次に御説明申し上げます。

会場は、3段構えです。1つは、メイン会場、2つ目はサテライト会場、3つ目はスポット会場、上から大、中、小の規模で会場を市内各所に設定していく予定です。詳しくそれぞれ御説明いたします。

こちらがメイン会場の富士森公園のイメージになります。オレンジ色の屋根が見えると思いますが、こちらが市民体育館になります。右に見えるのが市民球場でありますけれども、こちらと左下の陸上競技場、こちらが主な緑化フェアの会場になります。詳しくは後ほど御説明します。

そして、サテライト会場について次に御説明いたします。八王子は広いですから、市域を6つに分けて、それぞれに地域の特色を持ったサテライト会場を設置していこうということになっています。

まず、中央地域は、西放射線ユーロードになります。こちらがイメージになりますが、こちらでは花飾りのストリートファッションショーなどのイベントを行っていく予定となっております。

次に、北部地域は、道の駅八王子滝山をイベント会場としまして、高月には、さまざまな田園地帯が広がっていますけれども、そういった田園地帯を利用した田んぼアートなどのイベントを企画しています。

次に、西部地域ですが、夕やけ小やけふれあいの里を会場に予定しています。こちらでは、上川の里のハイキングのイベントなど地域ならではのイベントを企画しているところです。

次に、西南部地域は、高尾ケーブルカーの駅であります清滝駅前の広場や南浅川をイベント会場としていく予定です。

次に、東南部地域では、片倉つどいの森公園を会場としまして、広い芝生の広場を利用した、熱気球に乗れるという体験型のイベントも実施する予定です。

最後に東部地域ですが、南大沢駅前を会場としまして、大栗川をキャンドルライトで彩るキャンドルリバーといったイベントなども開催される予定となっております。

次に、スポット会場についてです。スポット会場は比較的小さな規模で、市内約100カ所を目指して設置していく予定で、一般家庭のお庭やお店の軒先、もしくはまちかどの花壇などを会場として設定して、市内に満遍なく会場を設定することで、緑化フェアを市内全域で盛り上げていく仕組みの1つとして組み込んでいます。

そして次に、先ほど馬場総務企画委員長からもありましたとおり、100周年記念事業と同様の形で、都市緑化フェアも実行委員会を設立しています。ここには市議会議員全員が参画しておりまして、馬場委員長の言葉を借りれば、ダブルチェックの体制がこちらでも整っているということが言えると思います。

さて、少し駆け足でここまでフェアの概要について御説明をさせていただきました。ここからが重要な点になります。議会報告会ですので、議会でこのフェアについてどのような意見や議論が交わされて、それが実際にどのように政策に反映されたかについて御説明をしたいと思います。

約2年間、これについては話し合ってきましたが、ご覧のとおり約4つの分類に大きく分けられます。1つ目は、運営と会場に関することについての議論がなされました。

代表的な議論として、公園などの公共施設だけではなくて、大学を初めとした民間施設を利用した会場や、民間との協働事業をしっかりと進めていくべきではないかという意見が議員から出され、市側としては、会場運営などにおいて協働事業を検討していきたいといった前向きな答弁がありました。

では、実際にどのように計画に反映されたかという点、例えば、こちらは富士森公園の陸上競技場の会場になります。左側はテニスコート、下側が体育館という位置になりますけれども、例えば（壇上スクリーン資料の）7番のエリアには、八王子千人同心花壇という、市民の皆様がガーデンデザイナーの指導を受けながら、技術を学びながら花壇をつくっていくイベントブースが設置される予定です。

そのほかに、企業とのコラボレーションとして、八王子ガーデンレストラン、ガーデン企業と飲食店が融合するエリアが企画されています。

そのほかに、（壇上スクリーン資料の）11番ですが、カルチャーライブといいまして、御存じの方はいらっしゃるかと思いますけれども、NHKの「趣味の園芸」の番組の公開収録などもこちらで行われる予定となっております。

最後になりますが、八王子学生出展ガーデン。その名のとおり、学園都市八王子にふさわしい八王子市内の大学生や専門学校生が、未来の八王子の姿をイメージしてガーデンや花壇をつくっていくブースも企画されています。

そのほかには、市民団体や町会・自治会など、さまざまな主体が協働してフェアにかかわる工夫をしてほしい、行政のひとりよがりではなく、さまざまな主体をフェアに入れてほしい、という提案があり、これにも前向きな回答がありました。

そこで代表的なものを幾つかお示しします。実際に計画に反映されたところでは、例えば地域運営部会というものを設置しました。この地域運営部会というのは、先ほど御説明しました6カ所のサテライト会場を、この地域の皆さんが運営部会を立ち上げて、その地域の特色を生かしたイベントや、運営方法を企画していただく。そして実行していただく。このような住民の皆さんが主体的にかかわるような仕組みを構築いたしました。

そして2点目は、医療刑務所の壁面アートということで、御存じの方はいらっしゃるかもしれませんが、子安町にあります医療刑務所の北側の壁を、市内の美術系の大学生の協力を得て、壁面アートを施していく。これのコンテストだったり、デザインを地域の皆さんとのワークショップを通じて、大学生と地域の皆さん、そして行政の3者がタイアップをして、コラボレーションでこういった会場をつくっていく企画も検討されるようになりました。

続いて、交通、輸送に関してです。40万人も来場者を呼んでこようというわけですから、なかなか公共交通機関だけでは足が足りません。そこでさまざまな提案がなされました。各会場間の回遊性を高める仕組みづくりや、メイン会場へのアクセスなど、40万人に対応するものを計画してほしいといった意見が出されました。もちろん、各会場には、原則、身障者の対応は別として、自家用車での来場は禁止となっております。実施計画にこのような指摘も、交通輸送計画、会場基本設計に反映したいという趣旨の答弁がありまして、実際にどのように計画に反映されたかと申しますと、無料シャトルバスの運行

を検討することになりました。

(壇上スクリーン資料を指しながら)こちらがメイン会場の富士森公園、こちらがJR八王子駅になります。南口から出発して、フェアのメイン会場まで直通のシャトルバスの運行を検討することになりました。復路は青のラインになりますけれども、ここを通過して西放射線ユーロード、先ほど御説明したサテライト会場の1つになりますが、ここを通過して南口に帰る。このような回遊の仕組み、企画を、議員の提案によって検討されたというところになります。

このルートだけではなくて、来場者が多く見込まれる土日、祝日に関しましては、各サテライト会場とメイン会場をつなぐ無料シャトルバスも運行できるように検討しているとのことです。

続いて、広告、観客誘致策についてです。40万人もの人出を集めるために、効果的に市内外から人を多く集めなければなりません。そのために、市内だけではなく、近隣都市などへの効果的な周知方法を考えてほしい。フェアに関連するイベントに出向いて実施していくことなども考えてもらいたい。こんな議員からの提案がありまして、市側としては、ターゲットに応じた宣伝手法を検討していきたいとの答弁がありました。

具体的にどのように広告・宣伝計画に反映されたかと申しますと、この表のように、八王子市内向けには、皆さんお手持ちのリーフレットの拡大版になりますが、ポスターなどの広告ツールや地元のお祭りでのPRです。先日、いちよう祭りが行われましたけれども、そこにも市役所のメンバーが出席して、全国都市緑化フェアの宣伝をしております。このような手法を行っていきます。

そのほかの、東京都内や、より遠くのお客様を引っ張るために、新聞広告だったり雑誌広告、もしくは関連イベントでのPRなどを計画していくという段取りになりました。具体的に申しますと、先月、銀座で行われた都市公園法60周年記念事業というのがありますが、このようなところに市役所の職員が出かけて行って、来年、八王子ではこのようなフェアをやりますよ、ぜひ来てくださいといったPRをして、そのほかにも、先月、有楽町で行われた都市緑化キャンペーンにも出かけて行って、PRを実施したとのことです。

続いて、最後にレガシーについてであります。日本語で言いますと「遺産」ということになるのですが、せっかく100周年の中心事業として大きな予算をかけてこのフェアをやるのだから、これを一過性のもので終わらせてしまつてはつまらないだろうと。さまざまな形でフェア終了後も引き継がれるようなレガシーを残してほしいという多くの意見が議員からありました。

その代表的な例として、緑化フェア終了後も市民の緑化意識を高め続け、次の100年へつなげる取り組みを充実させてほしい。学びの場づくりという狙いをお話ししましたが、市民の皆様の緑化意識がフェアで高まって、その後も継続していく仕組みを考えてほしいということです。市側からも一過性のものとならないよう計画に反映していくという前向きな答弁がありまして、さまざま事業が検討されました。

具体的なものとして、地域のシンボル修景。これは先ほど御説明しましたサテライト会場において、修景アドバイザーという専門のスタッフがいますが、そのアドバイザーに住民の皆さんが花壇づくりの技術や、ガーデニングの技術を習って、地域ならではの花壇やみどりの修景をサテライト会場につくっていく。そして、フェア終了後もそれを住民の皆様で維持していく取り組みが検討されました。

そのほか、植樹プロジェクトといいまして、八王子市内全小・中学校に、八王子にゆかりのある桜の木を植樹して、フェア終了後も記念樹として子どもたちに愛される木を育てていこうという事業も検討されたところです。

このほかに、レガシーに関する2つ目として、フェア終了後も市民が利用できる施設整備をしてほし

い。特に児童遊園などの整備をしっかりと行ってほしいといった意見がありました。これについても前向きな答弁がありまして、実は緑化フェアを開催するに当たって、特別な施設整備はもともとやらない予定でした。しかしながら、やはり市民の皆様が目に見える形で、何か緑化フェアの記念の施設整備を残していったほうがいいのではないかという議員からの提案が受け入れられた形で、今整備中の富士森公園の児童遊園にタイムカプセルや、子どもが利用しやすいトイレ、そして、乳幼児や小さい子どもたちが利用しやすい複合遊具などを整備することになりました。

さらに、富士森公園のこちらのところに、仮称ですけれども、アニバーサリーステージとあって、市民の皆様がイベントを開く、例えばこちらでは、春に、障害者の団体が福祉祭りというイベントをしますけれども、そのようなイベントにも使えるような広場を整備することも検討され、計画に反映されたところでは。

以上、議会で緑化フェアについてどのような意見が出されて、どのようにして計画に反映されたかを御説明申し上げました。

最後になりますけれども、さまざまな市民の皆様との協働事業が、今回この緑化フェアでは実施されることとなります。市民の皆様と行政、そして議会が一体となって、この100周年の記念事業、都市緑化フェアを成功裏に実施していきたいと思っておりますので、ぜひ皆様方の御意見や御協力をいただきまして、これから盛り上げていければと思います。

つたない説明ではありましたが、以上で終了させていただきます。御清聴、誠にありがとうございます（拍手）

◎浜中議会運営委員長 ただいまの報告は都市環境委員会の安藤修三委員長でございました。ありがとうございます。

それでは、この報告に対する御質問をお受けしたいと思っております。では、お願いします（挙手者から指名）。

◎市民 少しお話を聞きたいのですが、この期間は9月16日から10月15日となっておりますが、その前に準備期間というのがあると思っております。その間、この時期は秋の運動会で、結構あの陸上競技場は使われているので、そのあたりのことについて、文教経済委員会の委員の方々とどんなやりとりがあったのか。

それから、陸上競技場が会場となっているのですが、野球場は使う予定は全然ないのでしょうか。ぽこっとあそこだけ空いているような感じに見えたのですが、もしその辺のお話を聞かせていただけたらと思います。よろしくお聞きしたいと思っております。

◎浜中議会運営委員長 ありがとうございます。競技場の準備の様子ですね。準備の予定とか、それから野球場の使い方はどのようになっているかという御質問だと思いますが、安藤都市環境委員長からよろしくお聞きいたします。

◎安藤都市環境委員長 御質問いただきまして、ありがとうございます。まず、陸上競技場ですが、御指摘のとおり、かなり準備に期間を要します。そのため、市民の皆様に使っていただいておりますが、使用できなくなる期間がございます。陸上競技場と野球場は工事を予定しておりますので、基本的には一般の方は使用できないということになります。

議会でも会場についてはさまざま議論を重ねているところではありますが、市民の皆様には、体育協会などの団体を通じて説明をさせていただいているところだと市側から聞いております。その状況によって、市民の皆様のお意見を聞きながら、なるべく御迷惑がかからない程度に、理解を得ながらこの事

業を実施していくべきではないかなと思っております。

◎浜中議会運営委員長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

ほかに質問はございますか。では、お願いします（挙手者から指名）。

◎市民 説明の中にもありましたけれど、レガシーということが一番大事だと思います。それで、物としてのレガシーだけではなくて、緑化フェアの目的というのは、単に花とみどりとかということではなく、根本は地球温暖化防止というのが後ろのほうにあると思います。そうでなければいけないと思うのですが、そのために、フェア後は陸上競技場を撤去するという説明を以前お聞きしていますけれど、何億円かかるかわかりません。私としては、それもお聞きしたいのですが、何億円かかって、何百万円かかって撤去するのか。それでは全くレガシーというものは残らないので、できれば、そこは当然残していただいて、陸上競技場を別途つくっていただければありがたいなと思います。レガシーということで、子どもたちに向けて、地球温暖化防止や、みどりを大事にすることなどを小・中学校で教育するというのも合わせてやっていただきたいなと思いますので、よろしくをお願いします。

陸上競技場は設置に幾らかかって、取り壊しに幾らかかって、総額として何億円が出てしまうのか、説明してください。

◎浜中議会運営委員長 ありがとうございます。レガシーに対する御質問と、それから温暖化防止の目的などもしっかり考えているのかという御質問。さらには、陸上競技場の使い方、それから撤去に費用が幾らかかるのかと、全体の金額も問題だと思います。そうした点について、もしお答えができましたらお願いいたします。

◎福安議長 では、私のほうから。球場だけとか、今の富士森のグラウンドだけの予算は把握していませんが、都市緑化フェアは、市側が出した予算は全部で9億円です。当初は、今おっしゃったように、つくって、また、メイン会場とサテライト会場全部合わせての話ですが、1回フェアをやったら、全部もとに戻ってしまう。市民球場も、それから富士森のグラウンドももとに戻ってしまう。何も残らないということがあったものですから、議会での議論になりました。例えば公園や、また今御説明をさせていただいたステージを100周年記念都市緑化フェアのレガシーとして残していこうという議論になったところがございます。せっかくお金をかけて手を入れたのだから、そこはそのままにして、他にこれだけの規模の施設を新しくつくるとなると場所がなかなか簡単に見つかりませんが、御意見として賜っておきます。

◎浜中議会運営委員長 ありがとうございます。よろしいですか。

◎市民 全然説明になっていないし、後日、また具体的な数字をお聞きしたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

◎浜中議会運営委員長 ありがとうございます。アンケート用紙の裏にも質問記入欄がございますので、ホームページなり、さまざまな手法でお答えさせていただきたいと思います。ほかにございますでしょうか。

それでは、ないようでございますので、全国都市緑化はちおうじフェアに対する議会の取り組みに対する質問ということは終了させていただきたいと思ひます。

予定しておりました質疑が終了いたしました。まだ時間がございますので、本日の報告に関する質問以外の御意見や御質問もお受けしたいと思ひますが、先ほど、最初の質問の方、私のほうで少し勘違いしましたが、八王子の100年の歴史について、負の遺産についてもしっかり検証しているのかという質問に対し、総務企画委員会からお答えさせていただきます。では、馬場委員長、よろしくをお願いします。

◎馬場総務企画委員長 御質問ありがとうございました。今日は総務企画委員会から3名参加しておりますので、佐藤委員から、先ほどの質問の回答をお願いします。

◎佐藤総務企画委員 先ほどは総務企画委員会の報告への御質問をありがとうございました。お祭りなどの明るいものだけではなく、八王子空襲などの負の面にも目を向けて、歴史全体を紹介してほしいという御質問でございました。これにつきましては、議会でもこれまでさまざまな議論や提案がされてまいりました。それを受けてさまざまな取り組みがされておりますので、その一端を御紹介させていただきます。

まず、毎年8月に郷土資料館で特別展が行われております。これと合わせて毎年8月に平和展があるのですけれども、こちらも今年、100周年のプレ記念事業に位置付けられました。さらに、現在、中央大学のゼミの学生さんと協力しまして、八王子空襲の体験や戦争体験そのものの証言をDVDにして、アーカイブする取り組みも行われております。ほかにも、当時の様子を振り返るパネルキャラバンや、「八王子市史」の中でも戦争体験について紹介がなされており、市民の皆様からこれまで御提供いただいた貴重な資料や証言がいかされております。

以上でございます。

◎浜中議会運営委員長 以上でございます。大変失礼いたしました。

それでは、ほかにございますでしょうか。報告以外の質問で結構でございます。では、どうぞ。

◎市民 100周年に関してということで、1つ、八王子の市の歌、市歌のことにに関して、100年たった今、新しい市歌をもう一回公募して決めるというような考えはないのでしょうか。ないのでしょうか。ないのかもしれませんが、個人的な意見ですが、八王子の市歌は3番まであり、一番最後の文字がすべて「ますらを」となっています。このことの議論がされたのかどうか、私はわからないのですが、個人的には、北原白秋さんが戦前つくった歌ということで、当然、格調があり、そういう時代の中でつくられたということは理解できます。しかし、戦後71年たった今、多摩の八王子が「ますらを」ということでたたえられている意味の文字ですが、「ますらを」というのは「雄々しい男」ということなのです。男女平等社会に「ますらを」ということをたたえるという趣旨がどうなのだろうと、個人的には八王子市の歌の最後の文字に少し違和感を覚える訳です。このような議論をされた経過が八王子市議会であったのかどうかも含めて、少し聞きたいところがありました。100年たった今、未来に向けた新しい新時代の市歌を公募してつくってみてもいいのかなと個人的には思うところでございます。そのような議論をされたのかどうかだけでも質問をさせていただきます。

◎浜中議会運営委員長 ありがとうございます。市歌についての御質問でございます。100周年ということを考えて市歌が思い当たっているのだと思いますので、総務企画委員長、お答えいただけますか。

◎馬場総務企画委員長 御質問、ありがとうございました。

今、御質問者様がおっしゃられたことに対する議論があったか、ないかと言われますれば、私の記憶が間違っていたら申し訳ございませんが、最近の一般質問だったかと思えます。ある議員からそのようなことについての疑義を問う発言があったと記憶しております。

答弁者は教育長以下、各所管があったと思いますが、私どもで今、明快なそこでの議論のやりとりを記憶してございませんので、御質問者様がおっしゃられたニュアンスで、八王子行政側はそのことを寛容するというふうな立場ではまだなかったです。そういった答弁だというふうに記憶しております。詳しくはホームページ、または市議会の会議録などでご覧いただけますので、どの議員が質問をして、答弁があったというところをご覧いただけるかと思えますが、答弁のニュアンスとしては、先ほど申し上

げたとおりでございます。

それ以外に関しては、委員会や他の一般質問等で取り上げられていたという経緯は、私の中では記憶がありません。

◎浜中議会運営委員長 よろしいですか。ありがとうございます。

ほかにもございますでしょうか。では、お願いします。

◎市民 議員さん、初めまして。こんにちは。どうもお疲れさまです。少し話させていただきたいのが、全国緑化フェアが開催されるに当たり、秋篠宮同妃両殿下をお迎えしての全国的なフェスティバルでございます。このフェスティバルの目的は、緑化意識の高揚と、都市緑化に関する知識の普及等を図ることが目的とされております。緑化フェアの1つの取り組みとして、私が今考えておりますのは、西部地域の開発を取りやめて、八王子は、未来の新しい考え方の1つとして、自然や里山を残すほうがよほど緑化フェアになるのではないかと考えております。

◎浜中議会運営委員長 ありがとうございます。緑化フェアに対する疑義といいますか、そんなイメージかなと思いますので、安藤都市環境委員長からお答えいただきたいと思います。

◎安藤都市環境委員長 御意見をいただきまして、ありがとうございます。今おっしゃられた西部地域の開発に関しては、緑化フェアとはまた違ったステージというか場所ですさま議論がなされております。具体的には、川口の物流拠点の話ですとか、その他、川町の開発ですとか、八王子市議会でも川町の件に関しては請願などが出された経緯もあります。

ただ、緑化フェアとこれをつなげようと思うと、少々議論が分かれるところだと思います。おっしゃるとおり、緑化意識を高めていくということが緑化フェアの1つの目的でもあります。その緑化というのは、都市の中のみどりを増やしていこう、市街地のみどりを増やしていこうということにもありますし、自然のみどりを守っていくという2つの側面があると思いますので、御意見を参考にさせていただいて、これからの市議会での議論にいかしていきたいと思っております。ありがとうございました。

◎浜中議会運営委員長 ありがとうございます。よろしいですか。

ほかにもまだございますか。はい、どうぞ。

◎市民 市議会議員の方々をお願いしたいというか、第1回目から参加しておりますけど、第1回目の場合は、他市の市議会議員の方々が大勢見学にいらっしゃったと思います。満席になるような状態で、2回目も市議会議員の方と、八王子市役所の方とか、お付き合いで出ているというような状態でした。3回目になりますと、正体があらわれるというか、一般の市民の方はこの中でどの程度いらっしゃるかよくわかりませんが、全体では数百人もいるわけですね。このようなことでは尻すぼみになってしまうので、市議会議員の方は、緑化フェアに来てくださいとか、そういうことと一緒に、また議会報告会がありますので、皆さんぜひ参加してくださいということを、自分の支持者の方々にぜひお誘いしていただいて、より多くの一般の市民が出席できるような状況にしていきたいと思います。ぜひ次回は努力していただきたいなと思っておりますので、よろしくをお願いします。

◎浜中議会運営委員長 ありがとうございます。報告会のあり方のような中身の質問だと思いますので、西本総務企画副委員長からよろしくお願いたします。

◎西本総務企画副委員長 副委員長の西本でございます。貴重な御意見をいただきました。ありがとうございます。議会運営委員会の副委員長も仰せつかっておりますので、その立場からも市民の皆様としっかりと御説明申し上げたいと思いますが、市民の皆様が開かれた議会ということで、今回、第3回目を迎えることができました。まず、今日お越しいただいたことにつきましては、本当に心から感謝を申

上げたいと思います。ありがとうございます。会場も立派な会場を使わせていただいておりますし、満席の状況をつくっていくという努力を、私ども主催者としてはしっかり続けていく必要があるかと思

います。
私事で恐縮でございますけれども、私も先日、自身の市政報告会の講演会を行ったところ、150の方に議会報告会のチラシを配ってまいりました。ちょっと見たところ、なかなかお越しいたいでいないかもしれないんですけれども、アナウンスとしては、今日、壇上に上っている市議会議員、また控えております市議会議員すべてが同様な形で、それぞれの方々にお声をかけさせていただいているところでございます。やはり御都合もありませんかと思っておりますので、お見えになっていないこともあると思いますが、今後、また第4回、第5回と会を重ねていく中で、皆様にも足を運んでいただけるよう、これからも努力を続けていきたいと思っております。大変貴重な御意見、ありがとうございます。

◎浜中議会運営委員長 ありがとうございます。よろしいですか。

それでは、まだ御質問があるかもしれませんが、予定していた時間がまいりましたので、このあたりで質問を終了させていただきたいと思っております。

ここで皆様にお願いがございます。先ほど説明いたしました今後の議会報告会にいかすためのアンケートに御協力をお願いいたします。御意見など御記入の上、お帰りの際、受付にお出しいただければ幸いです。また、本日のアンケート結果は、市議会のホームページにも掲載したいと考えております。

それでは、閉会に当たりまして、小林鈴子副議長より御挨拶を申し上げます。

◎小林副議長 閉会に当たりまして、一言御挨拶させていただきます。本日はお忙しい中、八王子市議会議会報告会に大勢の皆様にご来場いただきまして、誠にありがとうございました。

今日、皆様からはさまざまな御意見をいただきまして、心から感謝申し上げます。また、皆様からいただきました御意見、とても貴重なものがございました。ですので、それらを本当にいかしていけますように、これからも市民の皆様にごわかりやすい、そして開かれた議会を目指して、今後も議会改革に取り組んでいく所存でございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。引き続きまして、八王子市議会に対しまして御理解、御協力をお願いいたしまして、閉会の挨拶とさせていただきます。本日は大変ありがとうございました。(拍手)

◎浜中議会運営委員長 以上をもちまして議会報告会を終了いたします。長時間にわたりお疲れさまでございました。お忘れ物がないよう、気をつけてお帰りください。本日はありがとうございました。

[午後8時29分閉会]